

生誕450年

伊達政宗の生涯をたずねて

第9回

仙台市博物館 主幹 高橋 あけみ



伊達政宗といえば黒い五枚胴具足に金色のアシンメトリな細い月の前立がキラリ。そんなイメージが強いですが、具足以外の服装はどうだったのでしょうか

流行の最先端—伊達政宗の南蛮服飾

まずあげられるのは当時流行した南蛮服飾の山形文様陣羽織（重要文化財、仙台市博物館蔵）です。輸入された毛織物の黒羅紗地に、裾には真っ赤な羅紗地を切嵌めという縫い目の出ない凝った縫い方で縫い合わせ、全体を放射状に舶来品の金銀モールで飾っています。襟元には黒色のフリルがついていました。

もうひとつ、殉死した菅野重成が拝領した黒羅板地胴服（当館蔵）をあけておきましょう。ポイントは素材と仕立て。黒の毛織物で、驚くのは右袖先から左袖先まで



重要文化財 山形文様陣羽織
伊達政宗所用 仙台市博物館蔵

一枚の布でとっていることです。今でいうところのダブル巾。しかも肩にも縫い目はなく、前身頃と後身頃を縫いで取っています。舶来の高価な生地をふんだんに使った、贅沢な逸品です。

のちに慶長遣欧使節と共に航海するセバスチャン・ビスカイノは慶長十六年（一六一一）十月に仙台城で政宗に謁見し、金襴やロンドン製の上質の黒羅紗などを政宗に献上しています。また、慶長十八年（一六一三）八月に、ウイリアム・アダムス（三浦按針）と思われる南蛮人が政宗に猩々緋合羽つまり真っ赤なマントを献上しています。こうした舶来の生地や衣裳が政宗の周辺には多くあったのでしょうか。

グッズも南蛮趣味

政宗の南蛮趣味は衣裳だけでなく周辺の小物類にもみられます。慶長六年（一六〇一）頃成立の『御物之帳』（当館蔵）には、政宗が手元においていたと思われる品々が書かれています。その中に、砂時計、アルファベット表か欧文の手紙らしき「南蛮字」、ロザリオである「こんたつ」もみられます。支倉常長ら慶長遣欧使節を海外に派遣するより十年以上前に、政宗がロザリオを持っていたのは驚きです。さらにガラス製とみられる「南蛮鏡」二面も記されています。仙台

城からも欧州産の絵付きガラス製ゴブレットの破片や、青いコンポートとみられるガラス破片が出土しています（出土品は仙台市教育委員会蔵）。政宗の墓所瑞鳳殿から発掘された品々の中には、ロザリオという説のある金製ブローチ、帯剣用のベルトを通すバックルとみられる銀製服飾品、国産の鉛筆、国産の日時計兼方位磁石、板ガラスが嵌まった筆入（いずれも当館蔵）といった舶来品や海外の影響を受けて日本で製作されたと思われる小物がたくさんあります。

南蛮以外もやっぱり洒落

しかしその一方で、瑞鳳殿出土の文箱や香合、硯箱、印籠、煙管箱などの漆工品（いずれも当館蔵）は、意外なことに、流行を取り入れつつも比較的伝統的でおとなしい、飽きの来ない感じがする品々です。ちなみに、鑢形眼帯は出土していません。

南蛮もの以外では、元旦には、桐と菊の紋がついた白綾の小袖（浅黄色の裏地付き）を着用し、長袴を履いていました。元旦という特別な日の服装以外では、白絹縮地雪薄紋単衣（当館蔵）があります。裏がなく、夏の湯上りにでも着るような感じでした。

なお紫羅板地五色水玉模様陣羽織（当館蔵）は、現在では十八世紀の作と判断されており、政宗所用ではないのでご注意ください。南蛮趣味、新しもの好き。しかし古風な面もあり、意外とシックな洒落者であったと考えますがいかがでしょうか。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付しておりません。

国内各地に残る関連資料を前期・後期あわせて230件展示。伊達政宗の人物像に迫る「大政宗展」開催。



（左から）黒漆五枚胴具足 伊達政宗所用 伊達市教育委員会蔵、重要文化財 黒漆五枚胴具足 伊達政宗所用 仙台市博物館蔵、黒漆五枚胴具足 片倉重綱所用 仙台市博物館蔵

特別展

伊達政宗—生誕450年記念

10月7日(土)~11月27日(月)

○会期中、展示替えを行います。

前期:10月7日(土)~10月29日(日)、後期:10月31日(火)~11月27日(月)

- ◇観覧料：一般:1,200円、高校・大学生:1,000円、小・中学生:800円
※10名以上の団体は100円引き
※このほか各種割引があります。詳しくはお問い合わせください。
- ◇休館日：毎週月曜日(10/9、11/27は開館)
- ◇開館時間：9時~16時45分(入館は16時15分まで)

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 仙台市博物館 検索